

# 園だより



令和4年6月1日

社会福祉法人新田保育園

園長 大西 陽子

## ほんとうのともだち

2泊3日の合宿から帰ってきた年長児ぞう組。その合宿で子どもたちは、『ともだちや』のキツネに会ってきました。絵本『ともだちや』は、1時間100円、2時間200円という具合に友だちになることをなりわいとするキツネが主人公の物語です。そのキツネにオオカミが「ともだちからかねをとるのか！それがほんとうのともだちか！」と言うのです。“ほんとうのともだち”とはどんな存在でしょう。

自分は何でもできると思っていた子どもたちが4歳くらいになると、他児と自分を比べるようになります。テレビで観ている〇〇マンにはなれないと気づき始めるのもこの頃で、本来の自分になりたい自分の間で葛藤し始めます。この時代に友だちとぶつかり合い認め合うことで、他児や自分と対話するようになるのです。安心できる大人だけでなく、友だちだって自分の弱さを理解し受け止めてくれる存在なのだと思えます。そうして“ほんとうのともだち”になっていくのではないのでしょうか。

合宿でキツネに会いに行った夜の、キツネとのやりとりです。

「お父さんやお母さんがいなくても合宿楽しいの？」 「うん。ともだちみんないるから」

「お家がいいって言っていたのに、どうして合宿に来たの？」 「ともだちとがっしゅくするのが、だいじだとおもったから」

「どうしていつも友だちに優しいの？」 「ともだちがこまっていたらたすけるの。だってともだちだから」

「自分が困った時はどうするの？」 「たすけてっていう。そうしたらともだちがたすけにきてくれるよ」

今年度からアプリを導入したことで、合宿の様子も臨場感溢れる映像でお届けできるようになりました。親元を離れ、友だちと職員とで山登りや川遊び、ごっこの世界を体験する貴重な3日間。その映像には映らない裏で、子どもたちには様々な葛藤がありました。助けてくれる大人が常にいる環境ではないからこそ、「できないから手伝って」「疲れたけれど進みたい」「こわいけれど会いに行きたい」という自らの発信が必要になります。それは子どもにとってとても勇気のいること。できない自分を認め、かつ友だちにそれをさらけ出すことになるからです。でもそうしないとやりたい自分にはなれないし、達成したいことも達成できません。ありのままの自分もありのままの相手も受け止め、こうありたいという理想に向かって互いが納得できるような案を一緒に見出していける存在、それが“ほんとうのともだち”ではないかと思うのです。

(文責：斉藤 千鶴子)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
6月		避難訓練	ひよこ組(3歳児)懇談会				健康体育(3・4・5歳児)	みかん組(0歳児)懇談会 歯科検診(全クラス)							健診(0・4歳児)		誕生会・写真の日								りす組(4歳児)合宿						